



「チームたかしま便り」 ～高島市の医療、介護、福祉に携わる皆様とともに～

第4号
2025. 1 発行

新しい年が始まりました。今年もご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年に実施した事業の中から、少しご紹介します。いつも多くの方にご協力をいただき、高島市ならではの顔の見える関係ができていることを感謝しています。今年も「チームたかしま」で手を取り合って、市民の皆様の望む暮らしを応援していきましょう。

薬剤師・訪問看護師・介護支援専門員 三職種合同研修会 「専門職同士での難事例へのチームアプローチ」

11.16 開催 参加 26名

高島市薬剤師会、訪問看護ステーション連絡協議会、湖西介護支援専門員連絡協議会の役員の皆様のご協力により開催

◇事例報告

介護支援専門員	ケアプラン元気な仲間	上松 緑氏
訪問看護師	リハビリ訪問看護ステーション Walk	土井 淳史氏
薬剤師	とうじゅ薬局	山川 邦之氏

専門的な治療を望み、3病院2クリニック7診療科を受診し、それぞれの薬局から多量の薬を処方されている方に対して、三職種が連携しながら専門性や役割を発揮して支援が行われました。

三職種の支援も専門分化することで、より適切なサービスが提供できるようになり本人、家族の生活が安定した事例でした。

本人や家族の思いに寄り添いながら、何とか医療機関や薬局をまとめ、薬の一包化もできるようになりました。

そこには、「何とかしなければ…」という思いや専門職としてのたゆまない努力がありました。

多数の医療機関への報告、連絡は100回にも及ぶほどであったということでした。きめ細やかな連携、情報提供や共有、相談で、それぞれの意向や思いをしっかりと聴いて、納得をしていただくというプロセスを大切にしていくことで、人の心は動きつながっていくんだと改めて学ばせてもらった事例でした。

○事例報告について…

- ・それぞれの立場や役割を意識することができた
- ・各職種の連携が支援に生かされていた
- ・多職種協働の大事さが改めて認識できた

参加者の声
アンケートから

○グループワークでは…

- ・専門職同士のできることや困りごとが共有できた
- ・各々の立場で、困っていることなど、聞くことができて良かった
- ・職種や環境が違うところで、様々なことで情報共有できたのが良かった

○他の職種との連携に関して、得られたことや理解がすすんだこと等…

- ・在宅でのその人の生活の仕方や方法など、みんなで共有できると、支援がスムーズにできる
- ・困った事（薬の事は看護師・薬剤師だけでなく）は、サービス担当者会議で、どうしたいか？そのために誰がどのように動くのか？など、話し合えたら良いと思った
- ・ケアマネジャーは突然の依頼があって、どこに頼んで良いかわからない事がある。高島市という地域で、それら助け合いやすい環境作りがコメディカルの現場から行われていると感じた



高島市医師会

松本会長より [講評]

ケアマネはその人のADLや意思を尊重しながらケアプランを考える職業なので、薬を減らすとか医療機関をまとめるとかを患者さんになかなか言えないと思うので、その辺はリーダーシップをとってくれそうなかかりつけの医師を見つけて、そこで整理していく流れがよい。

高島市内でまかなえる医療を何とかやっというところ、医師会の方でもそういう関係性をつくっていければいいかなと思います。

非常にたくさんの薬を飲んでいて大変な事例で、こういう人が増えてくる可能性があるのでは、皆で知恵を出し合いながら相談していきましょう。

湖西介護支援専門員連絡協議会

都井会長より [結びのことば]

困難な事例も連携すれば、本人や家族とともに乗り越えられます。

何かあった時には頼り合えるような関係が高島市ならできる！

これからもコミュニケーションを密に深めていきましょう。



「高島市における救急の現状と課題」

講師：小堀 高志氏 高島市消防本部 警防課 参事・消防指令

◆現状

○救急出動件数・搬送人員

- ・令和5年中 出動件数は 3,122件 搬送人員は 2,902人 そのうち、262 件が不搬送事案で全出動件数の約8%
- ・搬送先病院 高島市民病院 2,286 人、マキノ病院 348 人、その他の市内病院に 6 人 9割(2,640 人) が市内病院に搬送され、262 人が市外病院へ搬送

○ドクターヘリ要請件数 平成27年から京滋ドクターヘリが運用されている

- ・市内で年間 40～50 件要請 119番通報時や現場到着時に出動要請基準に該当すれば、積極的に要請

○事故種別 ・令和5年中 急病 67.9%、一般負傷 15.6%、交通事故 5.7%、その他 10.8%

○現場到着所要時間

- ・令和5年中 所要時間 約8.7分 所要時間は、年々増加傾向 全国 約10.3分、滋賀県 9.4分(令和4年)

○傷病程度(軽傷率) ・軽症率は約半数 救急車が必要ではなかった事案も291件あり(過去 10 年間)

○救急車で搬送された方の年齢構成 ・新生児、乳幼児、少年、成人は横ばいだが、高齢者は年々増加

◆課題

- ①同じ方による頻回利用問題 ・・夜間、公共機関がなく救急車を呼ぶ
- ②軽症利用が約半数を占める問題 ・・夜間に多い 公共交通機関がない
- ③救急車の現場到着時間の増加傾向問題 ・・本当に必要な重症者や中等症者の病院搬送が遅れる
- ④ACPやDNRの問題など ・・救命を希望していない人もいる

◆対策

- ①市内の関係機関との連携 介護職や訪問看護師に相談する体制づくり
- ②③ 適正利用の啓発促進、適正利用のポスターの掲示 滋賀県では、#7119事業が進められている
- ④高島市内の関係機関との調整が必要



年々増加する救急搬送では、4つの課題が相互に関連しているということがわかりました。必要な人が必要な時に適切に使えるようにするためには、保健や福祉、介護等に関わる多職種で連携し一緒に考え相談していくこと、本人や家族の不安や思いに耳を傾けること、地域での見守りも一助になることもわかりました。

ACPやDNRの問題についても、本人、家族との話し合いはもとより、関係者の情報共有や連携が大事であることが再認識できました。

高島市の多職種が集まって、それぞれの職種や機関の持つ現状や課題について話し合える場合は、多職種の連携によって課題解決に向けて一緒に取り組める機会でもあります。皆様のご参加をお待ちしています。

【今後の予定】

◎第 149 回高島市医療連携ネットワーク運営協議会

日時：2025 年 2 月 6 日 (木) 14:00～15:15 会場：高島市役所 新館 3階会議室 11

話題提供：「高島市権利擁護支援センターの活動 ～成年後見や権利擁護の現状と課題、意思決定支援～」

話題提供者：山崎雅也氏 高島市権利擁護支援センター(高島市社会福祉協議会) 自立生活支援専門員

◎多職種連携セミナー (第 150 回高島市医療連携ネットワーク運営協議会)

日時：2025 年 3 月 8 日 (土) 17:00～19:00 会場：安曇川公民館 ふじのきホール

テーマ：「心不全連携」(仮)

座長：長岡伊織先生 ながおか医院 院長

講師：八木典章先生 南草津ひだまりハートクリニック 院長

澁川武志氏 南草津ひだまりハートクリニック 理学療法士・心臓リハビリテーション指導士

実践報告：竹本 正樹氏 今津病院 医療ソーシャルワーカー

南橋 勇輝氏 ナースステーションひより 看護師

山本 暁氏 マキノ病院 訪問リハビリテーション 理学療法士

山本 一恵氏 きらり今津北 介護支援専門員

林 真吾氏 りんご薬局 薬剤師

お待ちしております

【お問合せ先】<事務局> 高島市医師会 在宅療養支援センター

〒520-1121 高島市勝野 1667 高島市民病院内

TEL:0740-20-9005 FAX:0740-20-9006 E-mail:takahima-med@office.eonet.ne.jp